

## 予防歯科学

責任者・コーディネーター	口腔医学講座（予防歯科学分野） 小林 琢也 教授				
担当講座（分野）	口腔医学講座（予防歯科学分野）				
対象学年	3			講義/演習	実習
期間	前期	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	前期	20.0時間	8.0時間
			後期	—	—

### 学修方針（講義概要等）

予防歯科学の内容は、個人の口腔保健管理のための臨床予防歯科学と集団の口腔保健管理のための口腔衛生学に大別される。前者の臨床予防歯科では専門性の高い介入方法を用いて口腔疾患の予防手段を実施しその効果进行评估する。代表的な口腔疾患の病因ならびにリスク因子を理解し、それぞれ疾患のそれら因子に対して科学的に効果的な予防手段を選択できるように学修する。実習では臨床における口腔保健管理の基本であるブラッシング指導の実施と評価法を学ぶ。後者の口腔衛生学では、第2学年時に「衛生学・公衆衛生学」で学修した集団に対する全身の健康管理に関する知識を口腔保健に適用することを目的に学修する。

### 教育成果（アウトカム）

個人予防歯科学の学修により、口腔疾患の病因とリスク因子を理解し、それらを科学的方法で評価することができるようになる。それにより臨床において、疾病発生前にリスクを評価し、適切な予防手段を提供することができるようになる。  
口腔衛生学の学修により、地域の特性に応じた地域口腔保健活動計画の立案の方法を理解できるようになる。さらに、口腔疾患の数量化を修得することにより、介入の効果判定を科学的に行えるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、4、5）

### 到達目標（SB0s）

1. 齲蝕のリスクを列挙できる。
2. 齲蝕のリスク評価法を列挙できる。
3. 齲蝕のリスクに対する予防法を列挙できる。
4. フッ化物による齲蝕予防機序を説明できる。
5. 歯周病のリスクを列挙できる。
6. 歯周病のリスク評価法を列挙できる。
7. 歯周病のリスクに対する予防法を列挙できる。
8. その他の代表的な口腔疾患を列挙できる。
9. 周術期の口腔保健管理の意義を説明できる。
10. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。
11. ライフステージ毎（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）の地域口腔保健活動の概要を説明できる。

### 事前事後学修の具体的内容及び時間

#### 【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

#### 【事後学修】

講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	4/10 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	<b>齶蝕と歯周病の要因と リスク評価1</b>  齶蝕と歯周病の要因と リスクを学ぶことによ りその発生要因とリス ク評価法を理解する。	1. 齶蝕の定義および発生要因を理解 する。 2. 歯周疾患の定義および発生要因を 理解する。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p.16-34、p.35- 47, p. 57-68 を読んで疑問点を整 理しておくこと。
講義	4/17 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野) 岸 光男客員教授	<b>齶蝕と歯周病の要因と リスク評価2</b>  齶蝕と歯周病の要因と リスクをを学ぶことによ りその発生要因とリス ク評価法を理解す る。	1. 齶蝕活動性試験など齶蝕のリスク ファクターおよび早期発見のための 検査方法を説明できる。 2. 歯周病のリスクファクターおよび 早期発見のための検査方法を説明で きる。 [PS-04、S0-02、D-5-1-1・2・4・5] 事前学修：教科書 p.148-153, p. 160-166 を読んで疑問点を整理して おくこと。
講義	4/24 (金)	4	衣斐美歩講師 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>口腔疾患の疫学指標</b>  口腔疾患に固有の疫学 指標を学ぶことで歯科 疾患とリスクの分布頻 度を把握できるようにな る。	1. 歯科疫学調査の特性を概説でき る。 2. 齶蝕の疫学指標を列挙できる。 3. 歯周疾患の疫学指標を列挙でき る。 4. 口腔清掃度の疫学指標を列挙で きる。 5. その他の歯科疾患（歯のフッ素 症、不正咬合、など）の疫学指標を 列挙できる。 [PS-04、C-6-1-3、D-5-1-5] 事前学修：教科書 p.148-153, p. 106-135 を読んで疑問点を整理して おくこと。
講義	5/1 (金)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>齶蝕の予防：フッ化物 の応用、予防填塞</b>  齶蝕予防のためのフッ 化物応用法と予防填塞 について理解する。	1. 自然界のフッ化物について概説で きる。 2. フッ化物の人体に対する為害作用 を説明できる。 3. フッ化物の齶蝕予防機序について 説明できる。 4. フッ化物の全身応用法、局所応用 法を列挙できる。 5. 予防填塞法の意義と術式を概説 できる。 [D-5-1-1・2・6] 事前学修：教科書 p.48-56, p. 155-159 を読んで疑問点を整理して おくこと。

講義	5/15 (金)	4	岸 光男客員教授  口臭の診断・予防を学ぶことで口臭臨床の心身の健康への寄与を理解する。  禁煙・食生活支援と歯科疾患の関連を学ぶことで歯科疾患予防におけるそれら支援の意義を理解できる。	<b>口臭の予防、禁煙・食生活支援</b>  1. 口臭の分類を説明できる。 2. 口臭の原因を説明できる。 3. 口臭の予防と処置を説明できる。 4. WHOの簡易的禁煙支援方法を概説できる。 5. 口腔保健のための保健機能食品を列挙できる。 [D-5-1-1・4、E-5-2-6] 事前学修：教科書 p.69-74, p.167-171, p. 184-196を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/22 (金)	4	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>プラークコントロール、歯磨剤</b>  プラークコントロールおよび歯磨剤について学習することにより、齲蝕、歯周病における予防法について理解する。  1. プラークコントロールの意義および種類について説明できる。 2. 口腔の不潔物に関する疫学指標について説明できる。 3. ブラッシング方法の種類とその特徴を説明できる。 4. 補助清掃用具の種類とその使用方法を説明できる。 5. 歯磨剤の種類を列挙できる。 6. 歯磨剤の基本成分および薬効成分を説明できる。 [D-5-1-2・3・6、E-5-2-1・2・3] 事前学修：教科書 p.172-183, を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	5/29 (金)	4	杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>口腔粘膜疾患、その他の口腔疾患の予防</b>  口腔粘膜疾患と周術期の口腔症状を学ぶことで歯科医療のニーズの多様性を理解できる。  1. 口腔粘膜疾患を列挙できる。 2. 周術期に生じる口腔症状と口腔管理の意義を概説できる。 3. その他の口腔疾患 (Tooth wear、不正咬合、顎関節症) の要因と予防法を概説できる。 [D-6-2-1・3] 事前学修：教科書 p. 75-83、p. 197-203を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/5 (金)	4	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>母子歯科保健</b>  母子歯科保健について学ぶことで、地域母子母子保健における歯科医師の役割が理解できる。  1. 母子歯科保健の意義と目的を説明できる。 2. 母子歯科保健活動の仕組みについて説明できる。 3. 乳幼児歯科健康診査について説明できる。 4. 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査のう蝕罹患型と保健指導内容を説明できる。 [C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5] 事前学修：教科書 (衛生学・公衆衛生学) p.149-161, 教科書 (口腔保健・予防歯科学) p.225-244 を読んで疑問点を整理しておくこと。

講義	6/12 (金)	4	佐藤華子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>学校歯科保健</b>  学校学校歯科保健について学ぶことで学校保健における歯科医師の役割が理解できる。	1. 学校歯科保健の意義と目的を概説できる。 2. 学校歯科保健活動の仕組みについて説明できる。 3. 学校歯科健康診断について説明できる。 4. 学校歯科医の職務を列挙できる。 <b>[C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5]</b> 事前学修：教科書（衛生学・公衆衛生学）p.162-178, 教科書（口腔保健・予防歯科学）p.245-264 を読んで疑問点を整理しておくこと。
講義	6/19 (金)	4	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)  岸 光男客員教授	<b>産業歯科保健 成人・高齢者歯科保健</b>  産業歯科保健、成人・高齢者歯科保健について学ぶことで、職域ならびに居住地における成人から高齢期の健康に対する歯科保健と歯科医師の役割が理解できる。	1. 産業歯科保健の意義を説明できる。 2. 職域における歯科保健管理について説明できる。 3. 歯周疾患検診を説明できる。 4. 特定保健指導における歯科医師の役割を説明できる。 5. 介護保険におけるチェックリストの口腔関連項目を列挙できる。 <b>[C-4-2-5、C-4-3-1]</b> 事前学修：教科書p.265-291を読んで疑問点を整理しておくこと。

## 実習日程表

実習	7/3 (金)	3 4	佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)  阿部晶子非常勤講師	<b>歯科集団検診</b>  歯科集団検診の実施を相互に体験することで歯科集団検診の意義と注意点（バイアス、実施リスク）が理解できる。	1. 歯科集団検診に必要な器具を列挙できる。 2. 歯科集団検診の基準統一について説明できる。 3. 歯科集団検診の手技を経験できる。 4. 歯科集団検診結果を集計できる。 <b>[C-4-2-5・6、C-4-3-1、D-6-2-5]</b> 事前学修：実習書の内容を良く確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。
実習	7/10 (金)	3 4	佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>口腔清掃度評価 ブラッシング指導</b>  口腔保健の必要性を学ぶことによって、口腔清掃状態を評価し、個人の口腔内状態に応じた口腔衛生指導を理解する。	1. 口腔清掃状態の指標を説明できる。 2. 相互実習でプラークの付着状況などの口腔清掃状態を評価できる。 3. 口腔保健の必要性を説明できる。 4. 個人に対応した口腔衛生指導を列挙できる。 5. 相互実習でブラッシング方法を説明し、実践させることができる。 <b>[D-5-1-1~5]</b> 事前学修：実習書の内容をよく確認しておくこと。実習書は実習1週間までに配布する。

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔保健・予防歯科学 第2版	山久喜久ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版 (第5刷)	安井利一、鳩崎義浩、岸 光男ほか 編	医歯薬出版	2025年

## 成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験 90%  
平常点 (ポストテスト、実習レポート) 10%

到達目標	DP	ポストテスト、実習レポート	定期試験	その他	合計
1～11	1、4、5	10	90		100
合計		10	90		100

## 特記事項・その他 (試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等)

講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。  
非常勤講師担当以外の講義では講義前後に試験 (プレテスト、ポストテスト) を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。  
提出されたレポートは、採点后、コメントをつけて返却する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有 (大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う)

## 授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的